

令和4年度 綾瀬市立北の台小学校 学校関係者評価報告書

<p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p> <p>学校教育目標</p> <p>学校経営方針 (グランドデザイン)</p>	<p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p> <p>よく考え、やりぬく子 広い心で思いやりのある子 明るく健康な子 進んで行動できる子</p>  <p>今年度の重点目標</p> <p>取組分野</p> <p>1 学習指導</p> <p>2 教育課程</p> <p>3 児童・生徒指導</p> <p>4 児童・生徒指導</p> <p>5 児童・生徒指導</p> <p>6 保健管理</p> <p>7 安全管理 教育環境整備</p>
<p>今年度の重点目標</p>	<p>聴いて 考えて 伝え合う 心たかましい児童の育成</p>
<p>取組分野</p>	<p>評価の観点</p>
<p>1 学習指導</p>	<p>学校は、「よく考えやりぬく子」「進んで行動できる子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。</p>
<p>2 教育課程</p>	<p>児童は、「学校行事や児童会活動など、特別活動」に積極的に参加している。</p>
<p>3 児童・生徒指導</p>	<p>学校は、「広い心で思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。</p>
<p>4 児童・生徒指導</p>	<p>児童は、友だちや先生との学校生活に満足している。</p>
<p>5 児童・生徒指導</p>	<p>学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取り組みを行っている。</p>
<p>6 保健管理</p>	<p>学校は、「明るく健康な子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。</p>
<p>7 安全管理 教育環境整備</p>	<p>学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。</p>

令和4年度 綾瀬市立北の台小学校グランドデザイン

学校教育目標

よく考え、やりぬく子
広い心で思いやりのある子
明るく健康な子
進んで行動できる子

学校経営方針

児童の育成

取組の推進

評価の観点

今年度の重点目標

聴いて 考えて 伝え合う 心たかましい児童の育成

児童の育成

取組の推進

評価の観点

今年度の重点目標

聴いて 考えて 伝え合う 心たかましい児童の育成

児童の育成

取組の推進

評価の観点

今年度の重点目標

聴いて 考えて 伝え合う 心たかましい児童の育成

8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	本校では、全職員が児童一人ひとりに目を向け、寄り添うことによって児童の状態を把握し、教育相談コーディネーター、心理相談員、医療機関などとも連携しながら、必要に応じた支援を行っています。また、学習支援者による一人ひとりの児童に対応した学習支援での学力向上にも努めています。さらに、児童理解を進めるための職員研修を行ったり、学習支援の体制を学期ごとに見直したりするなど、よりよい支援・指導となるように工夫しています。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	結果から、職員が一丸となり学校運営に取り組む意識を持っていることがうかがえます。しかし、学校教育目標を具現化するためには、さらに全職員がそれぞれの立場を自覚し、学校運営に参画することが必要です。今後も、どのような状況下であったとしてもすべての児童のよりよい成長を願うことを第一とした企画や運営を心がけ、その振り返りを適切に行い、より質の高い学校運営へと改善していけるように努めてまいります。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取り組みに力を入れている。	校内研究においては、同テーマでの研究が7年目を迎え、研究体制は充実しているものの、一人ひとりの授業改善へのさらなる意欲向上の必要性を感じています。また、研修・研鑽の必要性を認め、意欲はあるものの、会議や事務処理に時間を取られ、十分にできていないものと思われます。今後は、引き続き校内研究の充実に取り組むとともに、事務処理の効率化を図り、少ない時間を有効に活用できる手立てを工夫しながら、教職員の資質・力量の向上につなげていきたいと思います。
11 教育目標 学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	保護者の学校に対する見方と、教職員の意識には隔たりがあることが見受けられます。さらに、保護者に学校の教育理念や取り組みがしっかりと伝えられていないこともうかがえます。学校はこの結果を謙虚に受け止める必要があります。この結果が、学校と家庭との捉え方の違いによるものなのか、保護者への発信の仕方に問題があるのかなど、これまでの取組をしっかりと振り返り、全職員でよりよい児童の成長につながるように努めてまいります。
12 情報提供 保護者・地域 住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取り組みを行っている。	学校から発信した情報は、およそ8割の保護者に届き、理解されているようです。しかしながら、1割ほどの保護者には、理解が図れていないということがうかがえます。学校は保護者に、教育方針や学校運営の方向性、教師の思いや願い等をできるだけ多く発信する機会を設け、それらをさらにわかりやすく伝えられるような工夫を行うことで、保護者、地域の理解や意見を得ながら、よりよい教育活動を目指していきます。
<p>【学校運営協議会委員からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任の指導による学級の雰囲気は異なるものの、どの学級も落ち着いて学校生活を送ることができていてよい。引き続き、一人ひとりの児童を大切にしたい指導を継続してほしい。 ・児童が、ICT機器を活用した調べ学習を行う機会が増えていると思うが、辞書や本などを活用することも大切にしてほしい。 ・広い心で思いやりのある子を育てるためには、6年間の積み上げが大切となるので、学校内だけではなく様々な世代の地域人材と触れ合える機会が増えるとよい。教育課程の見直しや学校運営協議会を行う中で、地域と家庭、学校がつながるための新しい視点を考え、今後の活動を検討できるとよい。 ・登下校時や放課後において、交通量の多い場所や人通りの少ない道は危険に感じる。あやせ110番の家を児童と保護者が一緒に確認したり、見守りの数を増やしたりしながら安全面の配慮や指導の確認を共に行っていきたい。 		